



2026年5月14日

各位

会社名 株式会社ワコールホールディングス

代表者名 代表取締役社長執行役員 矢島 昌明

(コード番号3591 東証プライム市場)

問合せ先 執行役員 グループ管理統括担当 廣岡 勝也

(TEL 075-682-1010)

2026年3月期（累計）連結業績予想と実績との差異に関するお知らせ（IFRS）

2025年11月12日に公表いたしました2026年3月期（2025年4月1日～2026年3月31日）の連結業績予想と本日公表の実績において、下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 2026年3月期（2025年4月1日～2026年3月31日）の連結業績予想と実績との差異（国際会計基準）

	売上収益	事業利益	営業利益	税引前利益	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株当たり当期利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	173,800	△ 1,500	20,200	19,400	12,200	239.69
今回実績 (B)	171,510	△ 461	19,877	19,653	13,124	261.65
増減額 (B-A)	△ 2,290	1,039	△ 323	253	924	-
増減率 (%)	△ 1.3	-	△ 1.6	1.3	7.6	-
(参考) 前期実績 (2025年3月期)	173,896	△ 3,437	3,288	5,680	7,218	133.90

(注) 2026年3月期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前期実績（2025年3月期）の数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

2. 差異の理由

主要国におけるレディスインナーウェア等の販売の伸び悩みに伴い、売上収益は計画を下回ったものの、事業利益は販管費の削減や関税の影響が縮小したことから改善しました。一方で、主力チャネルの成長鈍化、米国関税やインフレによる販管費の増加に伴う利益率の圧迫を踏まえ、ワコールヨーロッパに係るのれんの使用価値を再評価し、のれんの減損損失を計上しました。

主要子会社別には、(株)ワコールは売上収益、事業利益ともにほぼ計画通りに推移しました。ワコールインターナショナル（米国）は百貨店や専門ECの仕入抑制により売上収益は計画を下回りましたが、関税影響の縮小に伴い、事業利益の改善に繋がりました。ワコールヨーロッパは売上収益が計画から微減となったものの、販管費投下の見直しにより事業利益が改善しました。中国ワコールはブランド価値訴求施策の一部で効果が出たものの、市況悪化により売上収益は計画を下回りましたが、事業利益は計画並みとなりました。

3. 配当予想

2026年3月期の期末配当予想に変更はありません。当社の1株当たり年間配当金は、支払済みの中間配当金50円に2026年6月に支払予定の期末配当金50円を加え、合計100円となる予定です。

以 上